

## 小松菜栽培を通じた地域農業の確立へ



南三陸町の山あい「戸倉西戸地区」で、若き農業者、星達哉さん（37）はミネラルと愛情たっぷりの『小松菜』を周年栽培している。

星さんは、祖父と一緒に複合経営で「輪菊栽培」を行っていたが、9年前の震災で被災し、施設や機械、自宅までもがすべて流された。そのような状況の中、星さんは地域の仲間たちと繰り返し話し合い、「自分達が農業をやるしかない。みんなでもう一度この地域に農業を興そう」と一大決心し、年間を通じて収穫できる『小松菜』を栽培することにした。

2012年の再開当初は、それぞれの土地の特徴が異なり栽培管理にとっても苦労した。長年の研究で地域資源の「牡蠣（カキ）・ホタテの殻」や「稲のもみ殻」を土壤改良に生かすなど、試行錯誤の末、年間を通じて安定した収穫を得られるまでになった。地域のパートさんを多く雇用し、出荷先もスーパー・病院・学校給食など多くの販売ルートも確立した。



星さんは地域に根差した循環型農業の先端を担っており、地域関係者からも今後の活躍が期待されている。